

プレスリリース

発信者 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会

理事長 下田 智久

〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 2-7-27

TEL:03-3268-3134 FAX:03-3268-3136

e-mail:shogaikouho@jhnfa.org

http://www.jhnfa.org

発信日 平成 29 年 4 月 3 日 (月) 渉外広報室

トクホ市場 6463 億円 前回は僅かに上回り、過去 2 番目の規模に伸長

= 特定保健用食品の市場および表示許可の状況 =

特定保健用食品制度は 1991 年（平成 3 年）の発足から 24 年が経過し、国が健康強調表示を許可・承認する制度として国際的にも注目されています。

1993 年（平成 5 年）に表示許可第 1 号の商品が誕生し、2017 年 3 月末現在、特定保健用食品として表示許可・承認された食品は 1127 品目となっています。

当協会は特定保健用食品の制度発足以来、食品業界に対して許可取得のための関係省庁の行政方針および関連情報の入手・伝達を始め申請相談等の支援活動を進めるとともに、健康食品全般について消費者および関係先への情報提供等の活動を展開して参りました。

その一環として 1997 年度から特定保健用食品の市場規模調査を実施し、行政・学術関係者、国内外のマーケティング関係者など各方面に資料として提供しております。

この度、2016 年 12 月から 12 回目のアンケート調査を実施しましたので、その集計結果を中心に市場規模の推定とともに、表示許可等の現状についてご報告させていただきます。

本報告の作成に当たり、当協会会員をはじめとした特定保健用食品を開発、販売している各企業から多大のご協力をいただいたことに深く感謝いたします。



本件に関するお問い合わせは 公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部 土田、中澤（TEL 03-3268-3132）または渉外広報室 福本（TEL 03-3268-3134）にお願いします。

I. 市場規模調査

1. 調査方法

特定保健用食品の表示許可を取得した企業に対して、アンケート方式で2016年度の品目別販売見込額および販売経路別市場構成について調査を実施した。

アンケートは2016年12月末現在許可取得の1204品目を持つ企業182社のうち、3月末までの失効品目および失効予定品目ならびに連絡先不明品目を除く、1094品目、167社を対象として調査を行った。そのうち144社からアンケートを回収し（回収率86.2%）、1086品目、161社について回答が得られた。

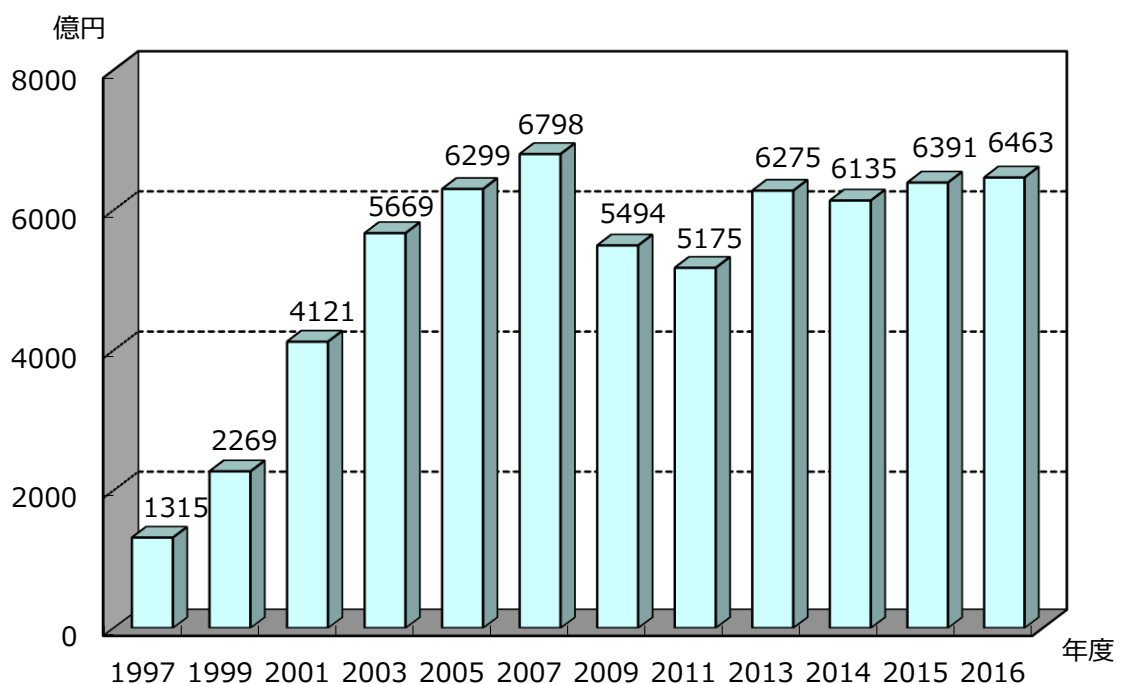
売上げ見込み額の詳しい情報が得られなかった品目については、それぞれヒアリングや業界内の生産、販売統計その他から当協会が推定した。

特定保健用食品の市場規模調査は1997年度から2013年度までは隔年で実施していたが、2014年度からは毎年実施している。

2. 集計結果

(1) 市場規模

図1. 特定保健用食品の市場規模の推移



(2) 保健の用途別市場概況

保健の用途別の市場規模の推移は以下のとおりであった（表1）。

整腸：「整腸」全体としては、調査開始以来、2005年度まで調査毎に上昇し続けていたが、2007年度から2011年度まで減少傾向が続いた。その後、2013年度に大幅に増加し調査開始以来の規模となったが、2014年度はやや減少し、2015年度は再び増加し、2016年度は前年度に比べ100.1%とほぼ横ばいであった。

「整腸」の中心となる乳酸菌関連品目は、全体とほぼ同様に推移しており、2007年度以降の減少傾向から一転し、2013年度は大幅に増加しピーク時の2005年度を上回った。2014年度は減少したが、2015年度は再び増加し、2016年度は前年度に比べ99.7%とやや減少した。

オリゴ糖関連品目は、2013年度は2011年度の2倍以上と大幅に増加し、2014年度はさらに増加したが、2015年度はやや減少し、2016年度は前年度に比べ99.3%と引き続きやや減少した。

食物繊維関連品目もオリゴ糖関連品目と同様に増減を繰り返しており、2014年度は調査開始以来の規模であったが、2015年度はやや減少し、2016年度は前年度に比べ106.0%とやや増加した。

コレステロール：調査開始以来、着実に増加を続けていたが、2013年度に初めて減少し、2014年度もやや減少したが、2015年度にはやや増加し、2016年度は前年度に比べ119.4%と増加した。

血圧：調査開始以来、増加傾向を示していたが、2007年度をピークにやや減少し、2011年度はピーク時に近い水準まで回復した。その後、減少傾向を示しており、2015年度は引き続き減少し、2016年度も前年度に比べ91.2%と引き続き減少した。

骨・ミネラル：調査開始以来、増減を繰り返していたが、2009年度をピークに2015年度まで減少傾向を示していたが、2016年度は前年度に比べ118.3%と増加した。

歯関連：1999年度調査に初めて登場し増加を続けていたが、2005年度をピークに2013年度まで減少を続けていた。2014年度よりやや増加傾向を示していたが、2016年度は前年度に比べ96.2%とやや減少した。

血糖値：2001年度から大幅に増加し、2003年度をピークに減少傾向を示していた。2015年度は増加したが、2016年度は前年度に比べ89.2%と大幅に減少した。

中性脂肪・体脂肪：歯関連と同様に1999年度調査に初めて登場し増加を続けていたが、2007年度をピークに減少した。2011年度以降再び増加し、2014年度は調査開始以来の規模となったが、

2015 年度はほぼ横ばいとなり、2016 年度は前年度に比べ 102.2%と引き続きほぼ横ばいであった。

保健の用途別の構成比は 2015 年度と同様に「整腸」が 52.9%と最も大きく、「中性脂肪・体脂肪」が 30.2%と続いた（図 2）。全体の構成比としては 2007 年度よりほぼ横ばいで推移している。

表 1. 保健の用途別市場規模の推移

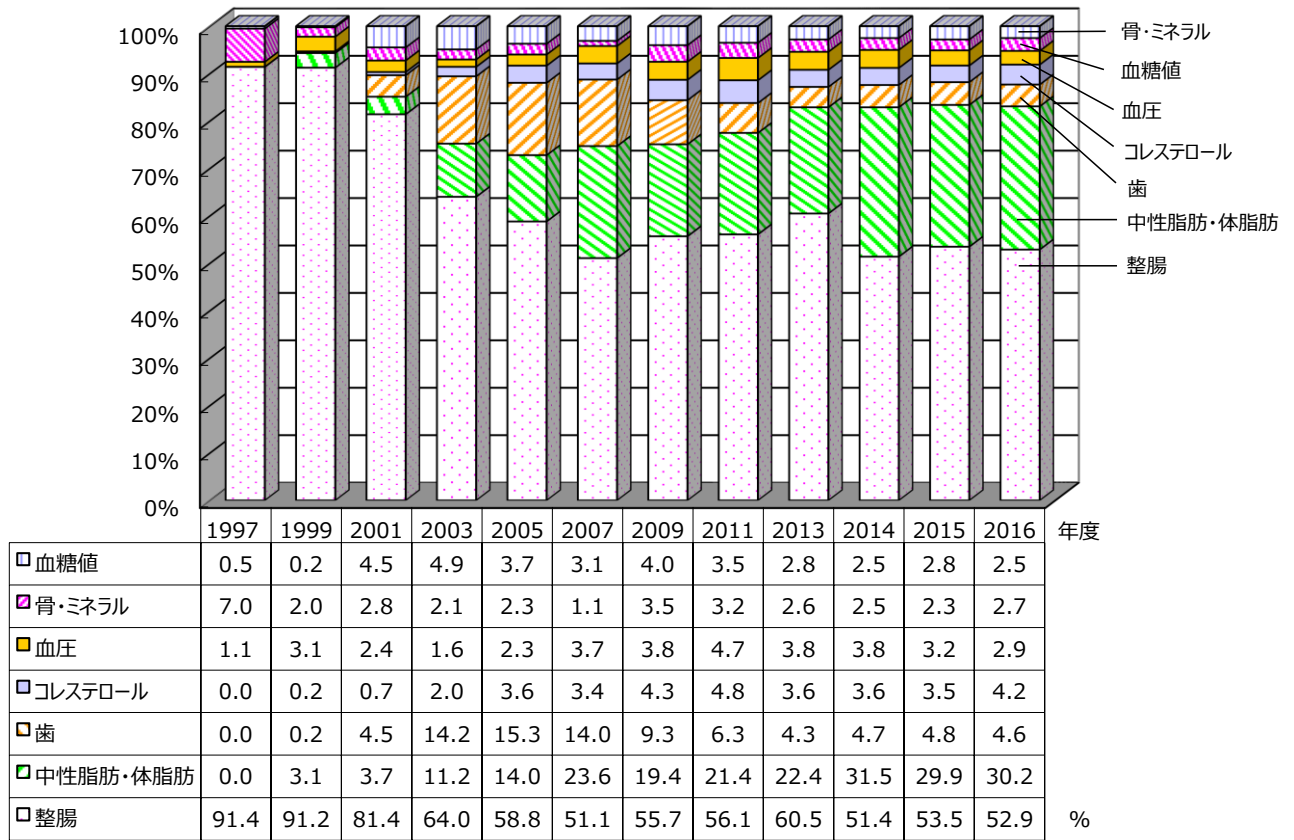
		年度							
		1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円
整腸	オリゴ糖	103.7	91.1	56.2	66.8	58.9	71.8	34.0	29.6
	乳酸菌*1	978.8	1863.0	3171.1	3420.8	3516.8	3249.3	2925.6	2764.2
	食物繊維	119.1	115.5	128.1	141.8	129.9	152.5	104.6	107.0
	小計	1201.6	2069.6	3355.4	3629.4	3705.6	3473.6	3064.2	2900.8
コレステロール		0.3	4.3	27.9	113.6	228.0	230.3	234.4	248.8
血压		13.8	71.6	100.0	88.1	147.7	250.5	208.2	244.9
骨・ミネラル		92.0	44.9	113.9	120.1	143.3	73.3	192.6	166.7
歯		0.0	3.7	186.7	804.8	961.0	954.0	512.0	325.9
血糖値		6.7	5.2	184.3	277.4	232.9	210.5	215.9	180.5
中性脂肪・体脂肪		0.0	70.0	152.4	635.4	880.7	1606.0	1067.1	1107.3
合計		1314.5	2269.3	4120.6	5668.8	6299.2	6798.2	5494.4	5174.9

		2013		2014		2015		2016	
		億円	11比(%)	億円	13比(%)	億円	14比(%)	億円	15比(%)
整腸	オリゴ糖	68.5	231.5	84.1	122.9	80.8	96.0	80.3	99.3
	乳酸菌*1	3562.1	128.9	2874.7	80.7	3153.5	109.7	3145.2	99.7
	食物繊維	165.4	154.5	197.3	119.3	182.3	92.4	193.2	106.0
	小計	3796.0	130.9	3156.1	83.1	3416.6	108.3	3418.7	100.1
コレステロール*2		224.3	90.1	218.1	97.2	226.2	103.7	270.1	119.4
血压		241.0	98.4	232.4	96.4	205.2	88.3	187.0	91.2
骨・ミネラル*3		160.3	96.2	154.2	96.2	149.0	96.6	176.2	118.3
歯*4		272.4	83.6	288.6	105.9	304.5	105.5	299.0	98.2
血糖値		176.6	97.9	154.0	87.2	181.9	118.2	162.2	89.2
中性脂肪・体脂肪*5		1404.6	126.8	1931.7	137.5	1907.9	98.8	1950.7	102.2
合計		6275.2	121.3	6135.1	97.8	6391.3	104.2	6463.5	101.1

*1 菌類含む、 *2 コレステロール+整腸含む、 *3 疾病リスク低減表示含む、 *4 はぐき含む、

*5 中性脂肪+体脂肪、体脂肪+コレステロール、血糖値+中性脂肪含む

図 2. 保健の用途別市場構成の推移



II. 販売経路別および食品の種類別市場構成

1. 販売経路別市場構成

販売経路別の市場構成は、調査開始以来、「スーパー」、「コンビニ」が全体の約 5.5～6 割を占め推移しているが、2015 年度は「スーパー」がやや減少したが、2016 年度は前年度に比べ 105.3%とやや増加した（表 2）。

「戸配」は、調査開始以来、2009 年度を除き約 3 割を占めて推移し、2013 年度から減少傾向であったが、2015 年度はやや増加し、2016 年度は前年度に比べ 91.5%とやや減少した。

「ドラッグ・薬局」は、2013 年度に大幅に増加し、構成比率もほぼ倍増したが、2014 年度から減少傾向となり、2016 年度は前年度に比べ 101.7%とやや増加した。

「通信販売」は、調査開始以来、構成比率が小さいまま推移しているものの、2009 年度以降は増加傾向であったが、2015 年度はほぼ横ばいとなり、2016 年度は年度に比べ 116.7%とやや増加した。

表2. 販売経路別市場構成の推移

年度

販売経路*	1999	2001	2003	2005	2007	2009	2011	2013
	%	%	%	%	%	%	%	%
スーパー	49.4	47.2	40.3	42.3	42.5	43.8	39.3	40.2
コンビニ	12.6	14.6	15.6	14.7	16.0	16.2	13.5	14.2
戸配	30.8	30.8	34.4	32.8	33.2	26.5	30.7	23.9
ドラッグ・薬局	4.1	3.8	3.0	3.1	2.7	5.4	5.9	10.5
通信販売	0.7	1.0	0.8	0.7	0.9	2.4	3.1	2.9
その他	2.4	2.6	5.9	6.4	4.7	5.7	7.5	8.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

販売経路*	2014			2015			2016		
	億円	%	13比(%)	億円	%	14比(%)	億円	%	15比(%)
スーパー	2558	41.7	101.5	2435	38.1	95.2	2563	39.7	105.3
コンビニ	984	16.0	110.8	1037	16.2	105.4	1071	16.6	103.3
戸配	1246	20.3	82.9	1567	24.5	125.9	1433	22.2	91.5
ドラッグ・薬局	448	7.3	67.8	441	6.9	98.6	449	6.9	101.7
通信販売	241	3.9	134.7	242	3.8	100.4	283	4.4	116.7
その他	658	10.7	125.9	668	10.5	101.6	664	10.3	99.3
計	6135	100.0	97.8	6391	100.0	104.2	6463	100.0	101.1

* 2009 年度までは、販売経路選択は複数回答としている。

2. 食品の種類別市場構成

食品の種類別の市場構成は4種類に区分して調査を行っているが(表3)、「清涼飲料水」は前年度に比べ102.3%、「加工食品・調味料」は前年度に比べ102.7%、「菓子・その他」は103.8%といずれもほぼ横ばいとなり、「乳製品」は前年度に比べ99.7%とやや減少した。全体の構成比としては、2014年度からほぼ横ばいで推移している。

表3. 食品の種類別市場構成の推移

年度

食品の種類別	2007		2009		2011		2013	
	億円	%	億円	%	億円	%	億円	%
清涼飲料水	1665	24.5	1315	23.9	1247	24.1	1797	28.6
乳製品	3285	48.3	3012	54.8	2840	54.9	3635	57.9
加工食品・調味料	879	12.9	599	10.9	636	12.3	428	6.8
菓子・その他	969	14.3	568	10.4	452	8.7	416	6.7
合計	6798	100.0	5494	100.0	5175	100.0	6275	100.0

食品の種類別	2014			2015			2016		
	億円	%	13比(%)	億円	%	14比(%)	億円	%	15比(%)
清涼飲料水	2315	37.7	128.8	2290	35.8	98.9	2342	36.2	102.3
乳製品	2927	47.7	80.5	3198	50.0	109.3	3187	49.3	99.7
加工食品・調味料	410	6.7	95.8	402	6.2	98.1	413	6.4	102.7
菓子・その他	484	7.9	116.3	502	8.0	103.8	521	8.1	103.8
合計	6135	100.0	95.1	6391	100.0	104.2	6463	100.0	101.1

【食品の種類】

1. 清涼飲料水：茶系飲料、炭酸飲料、果実飲料、ミネラルウォーター、ゼリー飲料、コーヒー、粉末清涼飲料（インスタントコーヒー等）など
2. 乳製品：乳酸菌飲料、はっ酵乳など
3. 加工食品・調味料：大豆加工品、穀物加工品、食肉・魚肉加工品、調理油、マーガリン、マヨネーズ、調理酢、甘味料など
4. 菓子・その他：キャンディー、クッキー、ビスケット、チューインガム、ナタデココ、あられ、チョコレート、錠剤、粉末、顆粒、乾燥スープ、即席みそ汁、青汁など

Ⅲ. 表示許可・承認の状況

1. 表示許可・承認品目の推移

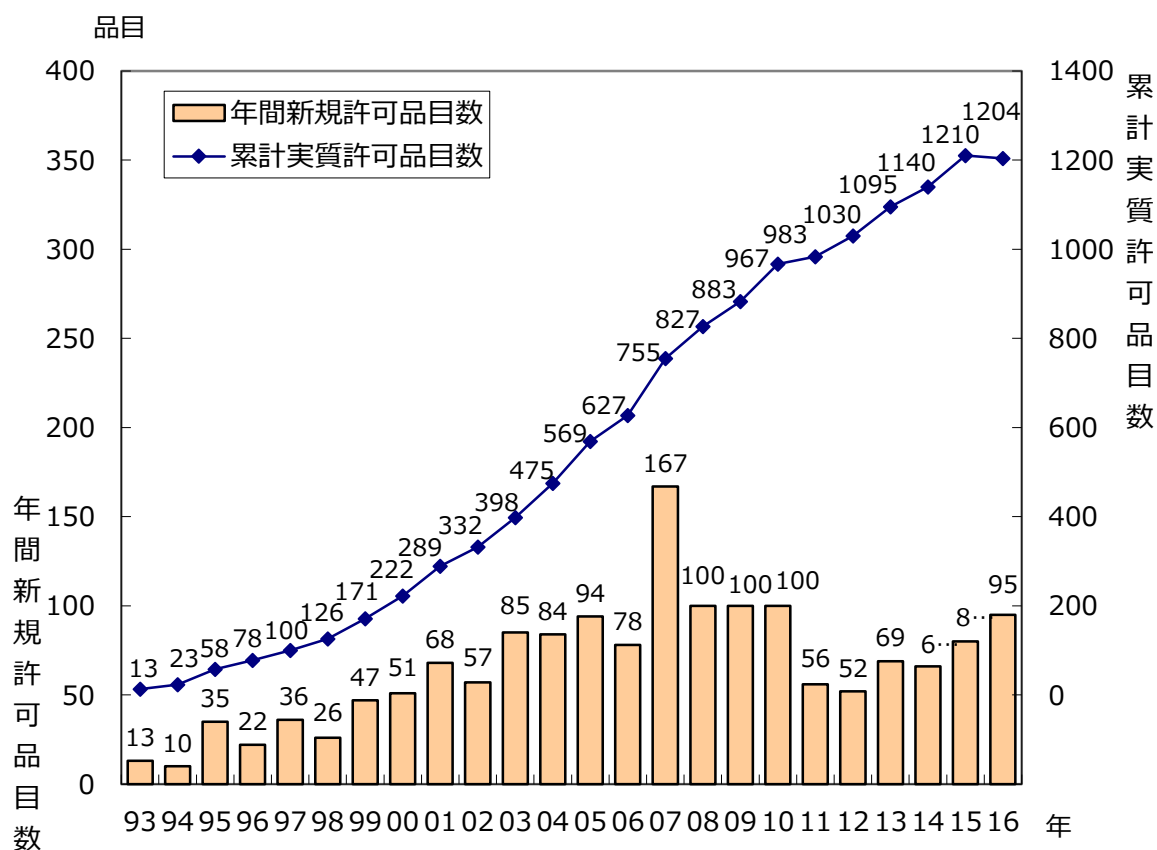
2016年12月末現在の表示許可・承認の品目総数は1204であった（図3）。

2016年1月から12月の1年間に表示許可を受けた特定保健用食品は95品目であった。

保健の用途別許可品目の内訳では、「中性脂肪・体脂肪」が23品目増と最も多く、続いて「血压」が11品目増であり、歯関連が4品目増と続いた。許可品目数の最も多い「整腸」は15品目減であった（表4）。

申請区分の内訳では、許可品目数の多い「再許可等」は21品目増であった（表5）。続いて許可品目数の最も多い「特定保健用食品」は24品目減であり、2013年以来の増加傾向が続いていた「規格基準型」は2品目減であった。

図3. 表示許可・承認品目の推移（2016年12月末現在）



* 累計実質許可品目数 = 累計許可品目数 - 同失効品目数

表4. 保健の用途別許可品目の推移

年

保健の用途		1997	1999	2001	2003	2005
整腸	オリゴ糖	40	53	62	62	76
	乳酸菌	8	36	55	61	69
	食物繊維	24	32	50	70	104
	小計	72	121	167	193	249
コレステロール		12	14	37	52	86
血圧		4	9	24	38	64
骨・ミネラル		8	10	18	23	33
歯		3	5	13	26	34
血糖値		1	3	19	49	72
中性脂肪・体脂肪		0	9	11	17	31
合計		100	171	289	398	569

保健の用途		2007	2009	2011	2013	2014
整腸	オリゴ糖	78	77	82	87	88
	乳酸菌	75	77	81	82	83
	食物繊維	144	169	192	208	223
	小計	297	323	355	377	394
コレステロール		114	136	139	146	150
血圧		88	110	119	126	126
骨・ミネラル		44	51	57	63	59
歯		58	68	75	86	88
血糖値		100	131	148	174	189
中性脂肪・体脂肪		54	64	90	123	134
合計		755	883	983	1095	1140

保健の用途		2015	構成(%)	14比(数)	2016	構成(%)	15比(数)
整腸	オリゴ糖	92	8	+4	83	7	△9
	乳酸菌	84	7	+1	81	7	△3
	食物繊維	232	19	+9	229	19	△3
	小計	408	34	+14	393	33	△15
コレステロール		155	13	+5	125	10	△30
血圧		126	10	±0	137	11	+11
骨・ミネラル		63	5	+4	61	5	△2
歯		102	8	+14	106	9	+4
血糖値		210	17	+21	212	18	+2
中性脂肪・体脂肪		146	12	+12	169	14	+23
肌		-	-	-	1	0	+1
合計		1210	100	+70	1204	100	△6

品目

表5. 申請区分別許可品目の推移

年

	2007	2009	2011	2013	2014
特定保健用食品	524	517	533	558	553
条件付き特定保健用食品	1	1	1	1	1
特定保健用食品（規格基準型）	16	28	47	80	110
特定保健用食品（疾病リスク低減表示）	5	10	14	16	14
特定保健用食品（再許可等）*	209	327	388	440	462
合計	755	883	983	1095	1140

	2015	構成(%)	14比(数)	2016	構成(%)	15比(数)
特定保健用食品	572	47	+19	548	46	△24
条件付き特定保健用食品	0	0	△1	1	0	+1
特定保健用食品（規格基準型）	135	11	+25	133	11	△2
特定保健用食品（疾病リスク低減表示）	16	1	+2	14	1	△2
特定保健用食品（再許可等）*	487	40	+25	508	42	+21
合計	1210	100	+70	1204	100	△6

品目

* 疾病リスク低減表示 12 含む

IV. むすび

総務省の家計調査では、2016年の総世帯の消費支出において、1世帯当たり1ヶ月平均の食料消費支出は62,248円となり、前年に比べ名目0.7%の増加、実質1.0%の減少となった。3年前の消費税率引上げ以降の慎重な消費行動は継続しているが、2016年の総世帯の消費支出全体が名目で1.9%減少（実質1.8%減少）したのに対し、食料支出は名目ではわずかに増加となった。

調査開始以来、2007年度をピークに減少し続けていた特定保健用食品の市場規模は、2013年度に大幅な回復を示した後、2014年度はやや減少したが、2015年度は再び増加し、2016年度は6463億円と前回は僅かに上回りほぼ横ばいであったが過去2番目の規模となった。

2016年の年間新規許可品目数は95品目と前年度に比べやや増加したが、実質許可品目数は失効届の提出により大幅に減少した。申請区分別の新規許可品目数は、「特定保健用食品」と「再許可等」が、昨年に引き続き多かったが、「規格基準型」は2品目と大幅に減少した。

トクホ制度発足以来、トクホ市場を牽引してきた「整腸」分野は、2014年度は減少したが、2015年度は主力の乳酸菌分野の回復により伸長し2016年度もほぼ横ばいで推移した。またメタボリックシンドロームの診断基準に関連する保健の用途では、「血压」は2013年度より減少傾向を示しており、「血糖値」も2016年度は減少したが、「コレステロール」は2015年度より増加傾向を示している。2011年度以降、顕著な伸びを示してきた「中性脂肪・体脂肪」は、2015年度に続きほぼ横ばいとなった。また2014年度より回復傾向を示していた「歯」は、2016年度は減少した。

販売経路別では、2014年度に比べ2015年度は「スーパー」は減少したが、2016年度は増加した。「戸配」、「コンビニ」は2014年度に比べ2015年度は増加したが、2016年度はやや減少した。2013年度まで伸長を続けていた「ドラッグ・薬局」は2014年度に減少し、ほぼ横ばいで推移している。

特定保健用食品制度は、昨年6月に閣議決定された規制改革実施計画に基づき、審査手続きの見直しが進み、同時並行審査への移行、標準的事務処理期間の設定、議事録開示などの通知等が周知された。今年度は規格基準型特保の要件見直しとともに新たな項目の追加があった。

一方で、消費者委員会が昨年4月に発出した「健康食品の表示・広告の適正化に向けた対応策と、特定保健用食品の制度・運用見直しについての建議」に対する対応や、9月には関与成分不足などで許可取消し処分があった件に対する一連の対応として、消費者庁は買い上げ調査の実施や第三者機関による定期的分析の報告、新たな知見の報告の義務化などを行うとして規制強化の方向である。今後、既許可品については品質管理の徹底と科学的根拠の増強が図られることにより、さらに各企業の新たな保健の用途申請へのチャレンジと新規商品開発による申請数の増加により、広く国民の健康の維持・増進に寄与し、市場の拡大につながることを期待したい。

健康食品全般においては、2年目を迎えた機能性表示食品制度において、届出品目数は着実に増加しているが、特定保健用食品市場への影響を見るにはさらに時間を要する。

当協会は今後も消費者庁をはじめ関係各省庁等の指導を得ながら、会員企業と協力して消費者に対する特定保健用食品の正しい使用方法等の情報提供を推進し、更なる普及に努めていきたい。

以上